

特集 2

きつかけは阪神・淡路大震災 (株)ムラカミ

九月一日は「防災の日」です。「安全・環境・健康」をテーマに防災関連事業などを手掛ける株)ムラカミは、北海道の札幌市に本社を置く、創業九七年の企業です。今年、暮末から明治にかけて活躍した探検家、松浦武四郎が「北海道」と名付けから一五五年終ちます。そんな北海道で、創業百年を目指すムラカミの社長、村上和輝さんに、お話を伺いました。

今年は関東大震災から一〇〇年目

——線状降水帯が降らせる強い雨など、今までにない災害が起こるようになってきました。災害に対して個人で、できる備えはどんなものでしょうか。

まず、食べ物です。普通、三日間分の備蓄を、といわれていますが、実際は、一週間分ぐらい備蓄しておいた方がよいでしょう。非常食はもちろんですが、カップ麺などもいいのではないのでしょうか。

ローリングストックという方法が

あります。日常使う食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限をチェックして古いものから食べて、食べた分を買い足していくことで、いつも一定量の食品が、家庭に備蓄されている状態を保つための方法です。

つまり、備蓄したものを定期的に食べて回していくことですが、普段から、いつ来るかわからない災害に備えることが必要ですね。

それから大切なのはトイレです。最近、強い雨が瞬間的に降ったりして、よく下水道や水路などから水があふれて被害が起こります。これを内水ないすい

氾濫はんらんといいますが、当然、水洗トイレは使えなくなりそうです。

ですから、非常用のトイレは欠かせませんね。

そして、災害では、まずライフラインである水と電気とガスを確保することが大切です。

停電すると、スマホなども充電できなくなり、蓄電器などを用意しておいたら、と思います。

ハイブリッド車も、冷蔵庫や電子レンジ、テレビの電源として利用できます。

災害時に情報を得るためには、ラジオは欠かせません。手回しラジオなど



●簡易式の非常用トイレ

を購入されてはいかがでしょうか。これまで上げた製品を少しずつでも、備えていただければ、と思います。

九月一日は、関東大震災にちなんで定められた「防災の日」ですが、今年、関東大震災から、ちょうど一〇〇年目となります。

マスメディアも、さまざまに啓蒙する情報を流しています。私も地元のFMなどで、みなさんに情報を提供しています。

——個人用ばかりでなく、自治体などにも製品を納入していると伺いましたが、どんなものを。

阪神・淡路大震災以来、自治体も非常食、特に、冬の厳しい北海道では寝袋といったものを、備蓄するようになりました。

避難所でも、いかにプライベート空間を維持するかということで、間仕切りが可能なテントなどを納品し



●設営や収納がワンタッチの災害対策用プライベートルーム

ています。

特に新型コロナウイルスの流行以降、感染症を防ぐということもありまして、避難場所でも、家族ごと、グループごとに、スペースを区切ることができるようにしています。

北海道庁に線量計を納入した

——北海道では原子力防災訓練も行っていきますね。

北海道には泊発電所がありますので、北海道庁に放射線を測る線量計やエアータント、非常食などの入札に参加して、納入しています。

——会社の創業者は、九州の福岡県から北海道にいらしたと伺いますが。

当時、北海道は麻が採れまして、麻の工場がありました。そこにいる親戚を頼って北海道に来たようです。

祖父は独立して、会社の創業者となりました。私は三代目になります。

ですから、会社は紡績業から始めて

います。私は東京で東洋紡績（現・東洋紡）系の商社に勤めていました。

勤めをやめて北海道に戻った翌年、一九九五年一月一七日に、阪神・淡路大震災が起きました。

それから防災の事業を始めました。防災事業に携わって、そこから消防や警察などの取引に広がりました。自衛隊は、それ以前からのお付き合いです。札幌市が、まず毛布を購入することになりました。家業の紡績業と商社での勤務経験が生きました。

ブラックアウトで電気の大切さを

——今までの災害で記憶に残っているのは、どんなものでしょう。

ご存知だと思いますが、二〇一八年九月には胆振東部地震があり、ブラックアウト、つまり、北海道全域で停電が起きました。二日間ぐらい電気がつかなかったときがあります。

苦東厚真発電所をはじめとして、水力発電所や風力発電所が次々に止まっ



●手回しで充電できるラジオ

それから北海道ですから、厳しい寒さの冬に、災害が起こることを想定して、暖を取る方法も、考えなければなりません。

今すべての家電に電気が使われています。それが止まったら仮定すると、寒さ対策として、寝袋もそうですが、ストーブも考えねばなりません。電気を一切使わない灯油ストーブを、一家に一台備えていればいいのですが。

電気を着火しないカセットコンロも重宝しますよ。

北海道でこれからの災害に備える

——北海道でこれからの災害に備えるとしたら、どんなことが想定されるでしょうか。

本州の方では、南海トラフ巨大地震で関東から九州まで被害が広がるのですが、問題になっていますが、北海道では日本海溝・千島海溝沿い巨大地震が話題になっています。

この地震では、北海道の太平洋側で巨大津波の被害が想定されています。政府も発表していますので、私もどもとしては、道民に対して食料の備蓄などをさまざまな機会を通じて、啓蒙していこうと考えています。



●水やお湯を注ぐだけのアルファ米などの非常食

災害に対する行政の準備や個人の準備も、お手伝いさせていただけようと思います。

ここ数年は、コロナ禍で、なかなかイベントができませんでしたが。今年の防災訓練や防災のイベントでは、行政や町内会を問わず、多くの声がかかっているので、積極的に参加いたします。我々のビジネスがお役に立って、いざというときに

に、(株)ムラカミと付き合っていてよかったです、思っていただけだと社内で話しています。そうなれば商売冥利に尽きると思います。

今年の「防災の日」の前後は、社員は休みなして働きますので、よろしく願います。

(株)ムラカミの防災商品などは

<https://www.japan-honpo.com/>

(聞き手・本誌 桑原政昭)

